

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	03	174360	観光ルート整備事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	04 観光の振興	
	施策	03	移動しやすい観光地			
目的	観光客の利便性向上のため、二次交通の充実と市内回遊性を高める事業に対し支援を行う。					
対象	観光客					
意図	温泉地や観光地へ向かう観光客の交通手段を確保し、利便性の向上を図る。					
事業概要	花巻温泉郷共同送迎バス運行支援 9,400千円 花巻温泉郷が共同運行する、JR新花巻駅～各温泉施設の無料送迎バスの運行支援 「どんぐり号・やまねこ号」運行支援 4,252千円 市内の主な観光施設をレトロジャンボタクシーで巡るツアーの運行支援 団体旅行貸切バスツアー運行支援 14,910千円 県外及び海外からの貸切バスを利用する団体ツアーに対する支援					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	どんぐり号、やまねこ号運行日数	日	計画	300.00	300.00	
			実績	294.00	248.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	観光環状バス等の利用者数(温泉郷無料送迎バス、どんぐり号・やまねこ号)	万人	目標	5.90	5.90	
			実績	5.70	5.50	
2	団体旅行貸切バスツアー運行支援を受ける貸切バス台数	台	目標	400.00	600.00	
			実績	492.00	497.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析(成果指標を設定しない場合は、その理由を記載)		
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、バス利用者・バスツアー利用者ともに減少。また、当市のインバウンドは台湾が大半を占めているが、令和2年2月に台湾における日本の渡航警戒レベルが3段階中のレベル2(警告)に引き上げられたことから、台湾からの観光客が激減。これらのことから観光環状バス等の利用者数・団体旅行貸切バスツアーのバス台数ともに目標を達することができなかった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	バス路線等が充実していない現状においては、観光客に過度な負担を強いることが無いよう行政の支援を行う必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	ツアーのコース設定の見直しにより集客を高めることができる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	「どんぐり号・やまねこ号」の利用料金を見直したが、今後の利用状況により、再度の見直しの余地はある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	利用者負担額、利用機会は観光客、市民とも平等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	主要観光施設を巡る「どんぐり号・やまねこ号」、駅と宿泊施設を結ぶ無料送迎バスは前年度並みの利用で推移していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に影響により年明け以降は利用者が減少した。
	次年度に向けて	二次交通の充実・市内回遊性の向上により、温泉地や観光地へ向かう観光客の利便性が向上され、イメージアップとリピーター確保につながることから、次年度以降も継続する必要がある。「どんぐり号・やまねこ号」については、次年度以降も観光客のニーズをすくいあげ、魅力あるコース設定を図り実施していく必要がある。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	07	01	03	174390	観光案内板整備事業費
総合計画	分野	01	しごと	政策	04 観光の振興
	施策	03	移動しやすい観光地		
目的	観光客の利便性向上のため、観光案内板の新設・更新等を図る。				
対象	観光客				
意図	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備する				
事業概要	観光案内標識等の整備検討 地図情報ソフトによる標識、案内板等の配置状況や表示内容の現状を把握し、整備箇所の検討をする。 観光案内標識等整備 4,876千円 構造上危険なものや、路線の変更、施設の改廃等により整備が必要なものについて、撤去、変更、新設を行う。				
市民参画の有無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会		事業協力・協定	後援・協賛
		補助・助成			委託
活動指標		単位	区分	H30	H31
1	案内板の撤去、変更、新設	件	計画	16.00	14.00
			実績	13.00	12.00
2			計画		
			実績		
3			計画		
			実績		
成果指標		単位	区分	H30	H31
1	案内板表示に満足した観光客の割合【観光客アンケート】	%	目標	90.00	90.00
			実績	87.00	84.00
2			目標		
			実績		
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度			目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
観光客が、目的地まで案内標識を利用してスムーズに移動できたかどうかについて、アンケート調査の実施により現状を把握し、満足度の数値向上を図る。目標値は、満足度アンケートにおける「全体的に満足いただけただか。」のこれまでの実績が90%近い割合で推移していることから、その結果を準用し、90%を維持するよう設定。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備することは、観光立市の実現を目指す市の責務である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	観光客がスムーズに移動できる環境は時間的余裕を創出し、市内の回遊性向上が期待できる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業の進捗状況により削減できる可能性がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備することは、更なる交流人口の拡大が期待でき市全体に受益を及ぼす。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	観光客が移動しやすい環境づくりはリピーターの増加も期待できた。
	次年度に向けて	全体の把握と随時見直しを行いながら環境整備を続ける必要がある。